

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創立以来掲げる「六綱領」(自主・自律、堅忍・果敢、創造・開発)を基に、生徒の個々の夢を実現させる教育活動を実践し、社会人として自立でき、地域や社会に寄与する人材を輩出する。厳しく寄り添いながらも、生徒・教職員がともに学び、ともに伸長することにより、「生徒・教職員にとって、楽しく伸び伸びと力を発揮でき、夢の実現へ主体的に活動できる学校」、そして、地域との交流・連携を推進することにより、生徒・保護者・地域から愛され、信頼されるとともに、「地域に学び、地域とともに歩む学校」をめざす。

①夢を育み自立できる生徒を育成する学校 ～ キャリア教育・学習指導の充実 ～

生徒の持つ能力を掘り起こし、生徒の資質を磨き上げながら、「将来の夢について、自身で、自信を持って語ることのできる若者」を多く輩出できる教育活動を展開する。

②厳しく寄り添いながら、生徒を指導・支援できる学校 ～ 生徒指導・支援体制の拡充 ～

様々な課題を抱えた生徒一人ひとりに対しての関わりを深め、保護者・地域・中学校との連携を強めながら、できる限りの支援や指導を行う。さらに教職員個々が生徒の教育者であり、且つ“生徒の応援者”としての機能を十分に発揮できる教育環境を構築する。

③地域とともに歩み、地域に愛される学校 ～ 地域連携の深化 ～

地域との連携を密にし、地域の豊かな自然環境や地域の人材・施設等を活用した教育活動を展開し、地域力を積極的に取り入れながら、生徒の「豊かな心」、「生きる力」、「自尊感情」、「規範意識」を育成する。

2 中期的目標

1 基礎学力の向上と定着

(1) 授業アンケートや学校教育自己診断の結果を踏まえ、「生徒の実態に即した授業」をめざした授業改善を行う。

ア 数学・英語において「少人数展開授業」を実施する。すべての教科において生徒の学力を分析し、実態に応じた「わかる授業」を展開する。また、学校設定科目の増設等により、授業・学習に興味・意欲を持つ生徒を増やす。また、教職員相互の授業見学・研究授業、および授業アンケート結果の活用等を通じて「授業力UP」を図る。

※学校教育自己診断の授業理解度を3年後には60%以上とする。

2 あらゆる側面での生徒支援に向けた指導体制の整備と充実化

(1) 将来の自分の生き方を設計できる力をつけることがキャリア教育であると考え、全ての教育活動をこの観点を踏まえ実践する。また「総合的な学習の時間」とLHR等を活用し、キャリア教育や人権教育等を総合的に実施し、美原の志学を確立させる。

ア 授業はもちろん、学校行事・HR活動・生徒会活動・部活動等全ての教育活動を「自立した社会人を育てる」という観点から組み立てる。そのために入学から卒業までの3年間を見通した指導計画を策定する。外部人材や地域・施設の活用を積極的に取り入れ、地域のニーズも組み入れながら、地域に貢献できる人材を育成するよう努める。特に1年生に対して、進路に対する明確な意識を持たせることができるよう指導する。

イ「総合的な学習の時間」「LHR」を中心に、3年間を見通した人権教育の指導計画を確立させる。個々の気になる生徒情報について学年と人権教育委員会、支援会議で共有できる体制を作る。

※進路未定率を限りなく0%に近づける。(平成26年度3.2%)

※学校教育自己診断の進路指導に対する肯定度を3年後には70%とする。

(2) 「ええもんはええ あかんもんはあかん」を原則に「厳しく寄り添う」姿勢を貫いた生徒指導を実践する。生徒との関わりについて教育指導者であり、かつ生徒の応援者としての機能を十分に発揮できるよう、計画的に生徒理解の研修等の実施により意識と質の向上を図るとともに、傾聴と守秘の姿勢で、生徒に向き合い、その声を受け止め、生徒理解を深める。

ア 相談室の常駐体制と3Cルームの活用を図り、生徒が安心して相談できる環境を整備する。また、外部の専門員による校内での相談体制を構築。支援コーディネーター・支援会議を中心に、中学校や相談機関、医療・福祉・労働関係機関と連携等の深化を図る。

※転退学者及び留年生の減少、

(3) 健やかな成長のための基本的生活習慣の確立

ア 規則正しい生活習慣は学習意欲や気力、体力の向上につながり、学力や生きる力を伸ばしていくものと考え、家庭との連携を図りながら生徒一人ひとりの現状を把握し、細やかな健康相談等を実践する。

3 生徒と教職員が健康で安全に過ごせ、魅力のある学校づくり

(1) 特別活動や生徒会活動を通じて、生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。また、地域への広報活動に積極的に取り組み、美原の良さをアピール、入ってよかった学校をめざす。さらに、地域関係機関との連携を密にし、地域とともに歩む学校とする。

ア 生徒自らが積極的、主体的に取り組む学校行事や生徒会活動、部活動等を展開し、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。

イ 中学校訪問や学校説明会等を地域のニーズに応えるように改善し、美原に入りたい生徒を増やす。

ウ 体育専門コースの充実を図り、活動を地域にも広げ、将来の地域の指導者となりうる人材を育成する。

※学校教育自己診断の学校行事の肯定度を3年後には80%以上にする。

(2) ICTの活用等により情報化・効率化を図る。また、HPのさらなる充実を図る。

ア 校務処理システムを定着・活用することにより、教職員の事務業務を軽減し、生徒と接する時間の確保に繋げる。

イ HPをさらに充実し、広報に努める。

(3) 「地震などの自然災害にも対処できる防災計画の策定」、「機能的な危機管理体制の確立」により、安全で安心な学校づくりに努める。

ア 教職員、生徒による日常的な安全点検を実施し、安全に過ごせる環境整備に努める。

イ 命の大切さを認識させ、生徒が自らの命を守るための「主体的に行動する態度」を育成する。

※学校教育自己診断における「命の大切さ」に関する肯定度を3年後には65%とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年11月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【生活指導について】 生徒保護者ともに、大部分で理解を得ている。一方で、指導には応じてはいるものの、指導の目的や意味の理解には至っていない意見もあった。どのような機会にいかんにか伝えていくのかを再考しなければならない。また携帯電話持ち込み禁止のルールにも多数の意見が寄せられた。これは本校での指導のポイントとなる部分であり、現行通りかまたは変更か、いずれにしても慎重に議論を進めていかないといけない。</p> <p>【学校からの情報発信】 アンケート結果から保護者への情報発信の手段を検討するの必要を感じた。HPの更新はもちろんのこと、学年単位での情報発信の手段として、『まちこみメール』を利用して、こまめに学校行事の日程などを保護者に伝えていきたい。</p>	<p>○第1回(6月8日実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入学選抜の方法の変更にもない、本校の特徴、求める生徒像を今まで以上にアピールするために広報活動に力を入れ、地域に根ざした学校経営をする必要がある。 ・ 数学、英語で行っている習熟度別少人数展開授業は効果的であると思われるので、今後も継続して欲しい。 <p>○第2回(12月10日実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PTA活動や授業参観など、保護者の学校への関心を高める努力が必要である。 ・ ホームページやメールマガジンなどを通じて行事などの連絡を積極的に行い、保護者に学校に出向いてもらう機会をもっと多く作ることを考えてはどうか。 ・ 美原高校の生活指導については、厳しいことが織り込み済みである。理解・納得をしている生徒・保護者が大半ではないだろうか。また、地元の企業の方々も美原の良さを雰囲気を感じておられるので、今のままの指導を続けて行くほうがよい。

- 第3回（2月3日実施）
- ・生活指導については今後もブレずにやっていって欲しい。
 - ・中学校への広報活動や保護者向けのメールマガジンなど学校からの情報発信を一層強めていく。
 - ・ICTを活用した授業やアクティブラーニングについては、現在実践している教員の授業観察を他の教員が積極的に行い、教材研究を繰り返し取り組んでいく必要がある。
 - ・生徒支援のための情報共有、対応の体制を一層強化したい。
 - ・地域や中学校では美原高校の進路指導（とくに就職指導）について評価をしている。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎学力の向上と定着	<p>(1) 基礎学力の向上と定着をめざした授業改善</p> <p>ア 生徒実態に即したカリキュラムの再考及び策定</p> <p>イ 教員研修の充実、教育ツールの活用</p> <p>ウ 公開授業、研究授業と授業アンケートを活用した授業改善の推進</p> <p>エ 他校種との授業交流等による教員力の向上</p>	<p>ア・1年生英語、数学での習熟度別少人数展開授業を継続し、基礎学力の定着を図るとともに学習を大切にすることを育む。</p> <p>・生徒の学力実態を把握し、1年次は「学び直し」も視野に入れた授業を展開することにより、つまづいている生徒への対応を図り、生徒一人ひとりの居場所づくりを行い、自己肯定感の向上を図る。</p> <p>イ・公開授業期間中を教員相互の授業見学期間と位置付ける。わかる授業をテーマにグループワークを行い、教職員の授業力向上を図る。</p> <p>・ICT機器及びプロジェクターを積極的に活用し、生徒が自ら考えることのできる授業を展開する。</p> <p>ウ・全教科1回は研究授業を行い、授業者に対する助言及び分析を実施。分析結果を基に教科内で改善案の策定を図る。</p> <p>エ・他校及び小中学校との授業交流を実施し、教員力の向上をめざす。</p> <p>・年2回の公開授業を学校協議会委員及び地域の小学校、中学校教員にも公開し、意見徴収を行う。</p>	<p>ア・学校自己診断による「勉強するのは大切」を76%以上（h26：73.3%）</p> <p>・習熟度別少人数展開授業（英語・数学）での肯定的な意見を90%以上</p> <p>・学校自己診断における「学校に行くのが楽しい」を65%以上（h26：59.8%）</p> <p>イ・グループワークによる教職員研修2回実施。</p> <p>・学校教育自己診断による「教え方の工夫」60%以上（h26：58.1%）</p> <p>ウ・学校自己診断による「授業はわかりやすい」55%以上（h26：52.7%）</p> <p>エ・他校種の授業見学を初任者2回以上実施する。</p> <p>・学校協議会委員の方々から意見をいただく。肯定度8割以上</p>	<p>ア・「勉強するのは大切」学校教育自己診断結果77.3%(1年82.9% 2年76.8% 3年70.3%)(○)</p> <p>・少人数展開授業に関する肯定的な意見は1年75.1%に対し、2年31.3% 3年50.9%と低い。(△)</p> <p>少人数展開授業を2年生で実施していない結果が顕著に表れている。</p> <p>・「学校に行くのが楽しい」66.6%、1年生は70.0%で特に高い。(○)</p> <p>イ・「ICT機器・アクティブラーニングの活用とこれからの美原高校の授業のありかた」をテーマにグループワークによる研修を1回実施(△)</p> <p>・学校教育自己診断における「教え方の工夫」の肯定度65.3%(◎) ICT機器の活用が少しずつ評価されている。次年度さらなる活用に努めたい。</p> <p>ウ・全教科研究授業を行い、授業アンケート結果も踏まえ、授業改善に取り組んだ結果、「授業はわかりやすい」肯定度62.0%(◎)</p> <p>・学校教育自己診断の「授業はわかりやすい」「先生は教え方を工夫している」「授業でわからないところは質問できている」の項目のポイントが5.5～9.3%アップしていることから、次年度も校内研修や研究授業を実施し、授業改善に取り組みたい。</p> <p>エ・初任者の他校種授業見学を中学校と支援学校で実施。授業のユニバーサルデザイン化、支援学校との授業交流につなげていきたい。学校協議会委員の方々の肯定度100%(◎)</p>

府立美原高等学校

<p>2 あらゆる側面での生徒支援に向けた指導体制の整備と充実化</p>	<p>(1) キャリア教育、人権教育の推進 ア 3年間を見通したキャリア教育による進路実現 イ 教職員の進路指導力向上 ウ 人権教育の推進</p> <p>(2) 「厳しく寄り添う」姿勢を貫いた生徒指導の実践 エ 個に応じた支援体制の充実、規範意識の醸成</p> <p>(3) 健やかな成長のための基本的生活習慣の確立 オ 個別指導、健康相談の実施</p>	<p>ア・入学時から3年間の進路指導計画を策定し、全教職員で共有する。特に1年生の進路に対する認識を高め、目的意識を持った高校生活を送らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年による実践を踏まえながら、学校全体で年間を通じて成果検証と改善点の検討を行い、生徒実態に即した計画とする。 ・外部人材を活用、生徒向け進路講習・講座を第1学年から充実させる。 <p>イ・3年学年団を対象に外部人材を活用した進路研修を実施し、生徒支援体制の充実を図る。</p> <p>ウ・人権講演会の内容を1年生にも理解しやすいものとし、人権意識の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回の交通安全講習会を計画的に実施することにより「命の大切さ」について生徒一人ひとりに学ばせる。 <p>エ・相談室の常駐体制(5月、9月の重点時期)及び3Cルームの活用をはかり、生徒が相談しやすい環境を整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援会議を教育相談の中心に位置付け、生徒一人ひとりへの細やかな対応を行うことにより、不登校等を減少させる。 ・生徒会、PTAを中心に生徒と協働できる活動を企画。生徒の規範意識等を醸成する。 <p>オ・保健だよりの定期発行、HP掲載等により、基本的な生活習慣確立への啓発活動に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康面、生活面で特に気になる生徒への個別指導、健康相談を充実させる。 	<p>ア・学校自己診断における進路指導に対する満足度を68%以上にする。(h26: 65.6%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職内定率95%以上(h26: 91.3%) ・学校斡旋による就職内定率100%にする。(h26: 97.1%) <p>イ・外部人材を活用した進路教職員研修を2回以上実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路未定率を限りなく0に近づける。(h26: 3.2%) <p>ウ・学校自己診断における「命の大切さや人権について学ぶ機会がある」を60%以上(h26: 57.5%) 1年生50%以上(h26: 44.7%)</p> <p>エ・学校自己診断の「学校の相談対応」の項目を53%にする。(h26: 51.2%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会、PTAとの連携による挨拶キャンペーン年2回実施する。 ・学級委員等と協働した活動を1回以上実施。 <p>オ・保健だよりを毎月1回発行し、HPにアップする。</p>	<p>ア・1年生進路職業別体験学習、2年生進路相談会を実施し、3年生は数値的に好結果を出しているが、学校教育自己診断の進路指導に対する満足度は64.0%にとどまった。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職未内定者2名 就職内定率97.6% (○) ・学校斡旋就職内定率100% (○) <p>イ・就職支援コーディネーターによる進路教職員研修を1回実施。提言を今後の進路指導に生かし、一層の充実を図りたい。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学89.7% 短大100%、専門学校98.8%が決定。進路未定率0.9% (○) <p>ウ・1年生「インターネットにおけるいじめやトラブルについて」2年生「パラリンピックキャラバン車いすバスケット」3年生「これから働くにあたって知ってほしい人権上の諸問題」をテーマに実施。さらに、3年生は「産婦人科医師派遣事業」を活用し、人権教育の推進に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生対象第2回交通安全講習会はスケアード・ストレート手法(スタントマンによる事故の検証)を用いて実施。学校教育自己診断における肯定的意見61.6%(1年生68.7%) (◎) <p>エ・相談室の環境整備に取り組むとともに、相談週間を設けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15回の支援会議を通じて生徒の実態把握、情報共有を図り、2回のSC出席のもと、生徒一人ひとりの支援を図ったが、学校教育自己診断結果の肯定度は48.6%にとどまった。生徒への周知方法を検討する必要がある。(△) ・PTAと生徒会による挨拶キャンペーン、清掃活動を合計3回実施。(○) <p>オ・保健だよりは毎月1回発行、HP掲載済。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康面・生活面で課題を抱える生徒対応は養護教諭を中心に丁寧に実施されており、上述の支援会議にて情報共有できている。(○)
--	---	--	--	---

府立美原高等学校

<p>3 生徒と教職員が健康で安全に過ごせ、魅力のある学校づくり</p>	<p>(1) 特別活動等を通じた自己有用感の醸成と地域広報活動の取組み ア 学校行事等への参加意欲向上 イ 創立40周年記念事業への取組みによる帰属意識の向上 ウ 部活動の活性化に向けた取組みの推進 エ 広報活動のさらなる充実と改善及び地域行事への参画 (2) ICTの活用等による情報化、効率化とHPの充実 オ HP等のさらなる充実と適切な情報提供の実施 (3) 安全で安心な学校づくり カ 自転車事故防止の取組み</p>	<p>ア・1年生の学級増に伴い、体育大会などの形態を再考。生徒会部を中心に、全生徒が積極的、主体的に参加できる行事を確立する。 イ・創立40周年記念事業への取組みを進めることにより、集団への帰属意識や連帯感を高め、地域や関係団体との連携を深める。 ウ・生徒会による部活動発表会(4月新入生向け、文化祭、40周年式典等)を実施するとともに、あらゆる機会を通じて部活動を顕彰する。 ・地域中学生参加による部活動の大会(美高杯)や合同練習会、体験会を生徒が企画、運営することにより、生徒の達成感や自己有用感を醸成する。また、本校をめざす生徒を増加させる。 エ・体育専門コースにおいて、特色ある授業を展開することにより、体育専門コースをめざす生徒を増やし、達成感を醸成することにつなげる。 ・1学期の早い時期から旧7学区以外の中学校への広報活動を実施するとともに近隣中学校との連携を強め、美原をめざす生徒を増加させる。 オ・HPを随時更新することにより、本校の取り組み等を発信し、広報の充実を図る。 ・メール配信のさらなる充実及び保護者宛文書の郵送(2回)等により、保護者への適切な情報提供を行う。 カ・全校生対象の自転車マナーに特化した安全講習会を3回実施し、交通事故防止に努める。実技講習会を1回は実施する。 ・毎朝の正門での交通指導により、通行マナーの向上を図り、交通事故防止に努める。</p>	<p>ア・学校自己診断における行事に対する肯定度を75%以上 イ・生徒会だより等による生徒自らの情報発信を5回程度実施、生徒の積極的な参画を促す。 ウ・新入生の部活動加入率を50%以上(h26:49.2%) ・学校自己診断における「部活動はさかんである」肯定度65%以上 ・美高杯への参加中学校40校以上 エ・体育専門コース生によるコース選択の満足度90%以上 ・校内での学校説明会、見学会参加者400名以上(h26:336名) オ・保護者の学校自己診断「HPを見たことがある」の項目50%以上 カ・自転車事故の減少。30件以下(h26:46件(接触事故22件))</p>	<p>ア・新入生歓迎会・球技大会・体育大会・文化祭・40周年記念式典で生徒会執行部が中心となって企画運営に携わり、行事を成功に導いたが、肯定度は67.3%にとどまった。特に40周年記念式典の文化行事公演に生徒が出演し、フラッシュモブの形で多くの部活動部員が参加したが、アンケート結果には反映されなかった。(△) イ・生徒会だより(2回)、国際交流ニュース(3回)発行。地域のイベントに3団体が出演。(○) ウ・新入生の部活動加入率52.4%(◎)今後も作家率を維持していくことが課題。 ・スポーツライミング部が近畿大会に出場するなどの結果は反映されなかった。「部活動はさかんである」肯定度60.6%(△) ・美高杯5種目にのべ42校770名参加。参加者数は12.6%増加した。(◎)今後も美原体育館との連携を深めながら、地域連携事業の充実に努めたい。 エ・体育専門コースを選択してよかったという肯定的意見100%(◎)様々な球技の取組みやカヌー実習などに対して「楽しかった」という肯定的意見が多かった。次年度体育専門コース希望者68名 ・近隣中学校への広報活動(中学校訪問)は各校4回ずつ実施。校内説明会等の参加者は484名(◎) オ・HP、保護者向けメール配信ともに十分発信できなかった結果、「わからない」という回答もあり、肯定率は16.2%にとどまった。(△)次年度は各学年からの保護者向けの情報発信に力を入れたい。 カ・各学年3回実施のうち、1学年第1回交通安全講習は実技講習を実施。自転車事故22件。生徒の肯定的意見61.6%(◎)次年度も引き続き自転車の安全運転指導に取り組み、事故防止を図る。</p>
--------------------------------------	--	--	--	--